



日本歴史小説年表



歴史小説・時代小説は盛りだくさんで、何から読めばよいのか迷うほど。好きな作家や歴史上の人物の本を読み終わって、「次は何を読んだらいいのやら」ってことありませんか？今号は、おすすめの歴史小説を時代順にご紹介。日本の歴史を小説でたどってみました。戦国や幕末の超有名人が主役ではないけれど、おすすめどころをピックアップしています。

『炎立つ』 全五巻
高橋克彦著 NHK 出版

時代	原始時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代
日本の歴史			<p>『鬼道の女王 卑弥呼』 上・下巻 黒岩重吾 F加 文藝春秋</p> <p>強大な漢を隣国に持つ倭列島。数多くの小国が争いを続けていた弥生時代。巫女の王として民から崇め奉られていた卑弥呼は、時代の要請により倭の国を一つにまとめる役を担っていました。</p> <p>そんな卑弥呼だって一度は恋をしていたはず。奔放な少女時代から女王時代まで、たくましい想像力によって描かれています。</p>	<p>『天平冥所図会』 山之口洋 Fヤ 文藝春秋</p> <p>奈良の大仏や正倉院ができた頃。平城京での政治抗争に巻き込まれていく夫婦。ともに宮中で働く二人がこの世とあの世に別れて、権力悪に立ち向かう歴史ファンタジーです。</p>	<p>『はなとゆめ』 冲方丁 Fウ KADOKAWA</p> <p>日本の歴史のなかではきっと、平安王朝が一番華やかだったはず。恋や和歌が咲き乱れ、貴人麗人の装いは宮廷に色を添える。栄華を誇った藤原一族の華と権勢の中で、清少納言が最後まで中宮定子に忠誠を貫き通した物語。匂い立つような世界にうっとりしちゃってください。</p>
			<p>『朱鳥の陵』 あかみどり みささき 坂東眞砂子著 集英社</p>		

安土・桃山時代	室町時代	南北朝時代	鎌倉時代
<p>『ガラシャ』 宮木あや子 Fミヤ 新潮社</p> <p>細川ガラシャは、織田信長に謀反し、わずか数日で滅んだ明智光秀の娘。戦国という男達の戦いのなか、時代に翻弄されながらも異端のキリスト教に救いを求め、その教えを信じ抜きました。ガラシャと言う名前をもらった彼女の、波乱に満ちた悲しくも切ない人生絵巻です。</p>	<p>『小説 山城国一揆』 東義久 KFア 文理閣</p> <p>約530年前に山城地方を舞台に繰り広げられた山城国一揆。この小説は、定円という奈良興福寺の若い修行僧の青春物語でもあり、骨太な土着の民衆の国づくりの叙事詩でもあります。</p> <p>当館では昨年10月、作者が本書創作にあたり教示を受けた門脇禎二氏の蔵書を集めた、「門脇文庫」を開設しました。図書館北側の窓から、一揆の終焉の地となった精華町の稲八妻城跡などを眺めることができます。</p>	<p>『新太平記』 山岡荘八著 講談社</p>	<p>『時宗立つ』 内村幹子 F好 新人物往来社</p> <p>鎌倉幕府を開いた源頼朝亡き後、將軍の跡継ぎをめぐる頼朝の妻北条政子を中心に陰謀と抗争が渦巻きます。頼朝の血を引く將軍達が次々と暗殺される中、最後の將軍補佐となった北条時宗が胸をすく活躍をします。</p>

江戸時代	行事のお知らせ
<p>『奇蹟』 立松和平著 東京書籍</p>	<p>『花冠の志士』 古川薫 Fフル 文藝春秋</p> <p>幕末の時代、大きな渦の中心の一つでもあった吉田松陰の松下村塾。その塾で高杉晋作と並ぶ秀才であった久坂玄瑞。多感な文学青年が師と出会い、蛤御門で25歳という若さで散るまでを、作者の暖かい目線で描いています。幕末という混乱の時代を疾駆した玄瑞の鮮烈な生涯を本書で見届けてみませんか？</p>
<p>『四千万歩の男』 全五巻 井上ひさし Fイ 講談社</p> <p>日本中を歩いて歩いて歩き回り、実測による日本地図を作った伊能忠敬。彼の生涯を記した作品は多々ありますが、やはりお勧めしたいのは、丁寧に丹念に地道に取材し、濃く深い小説に仕上げた本著です。日本の見事な男の物語をご堪能あれ。</p>	<p>『桜田門外ノ変』 吉村昭著 新潮社</p>
	<p>「この本よんで！」を上げよう ～ 絵本で育つ子どもの心 ～</p> <p>日時：平成26年5月18日(日) 午前10時～午前11時30分</p> <p>定員：先着50人(大人対象)</p> <p>講師：脇谷 邦子 氏 (同志社大学嘱託講師)</p> <p>詳しくは、図書館HP・チラシをご覧ください</p>